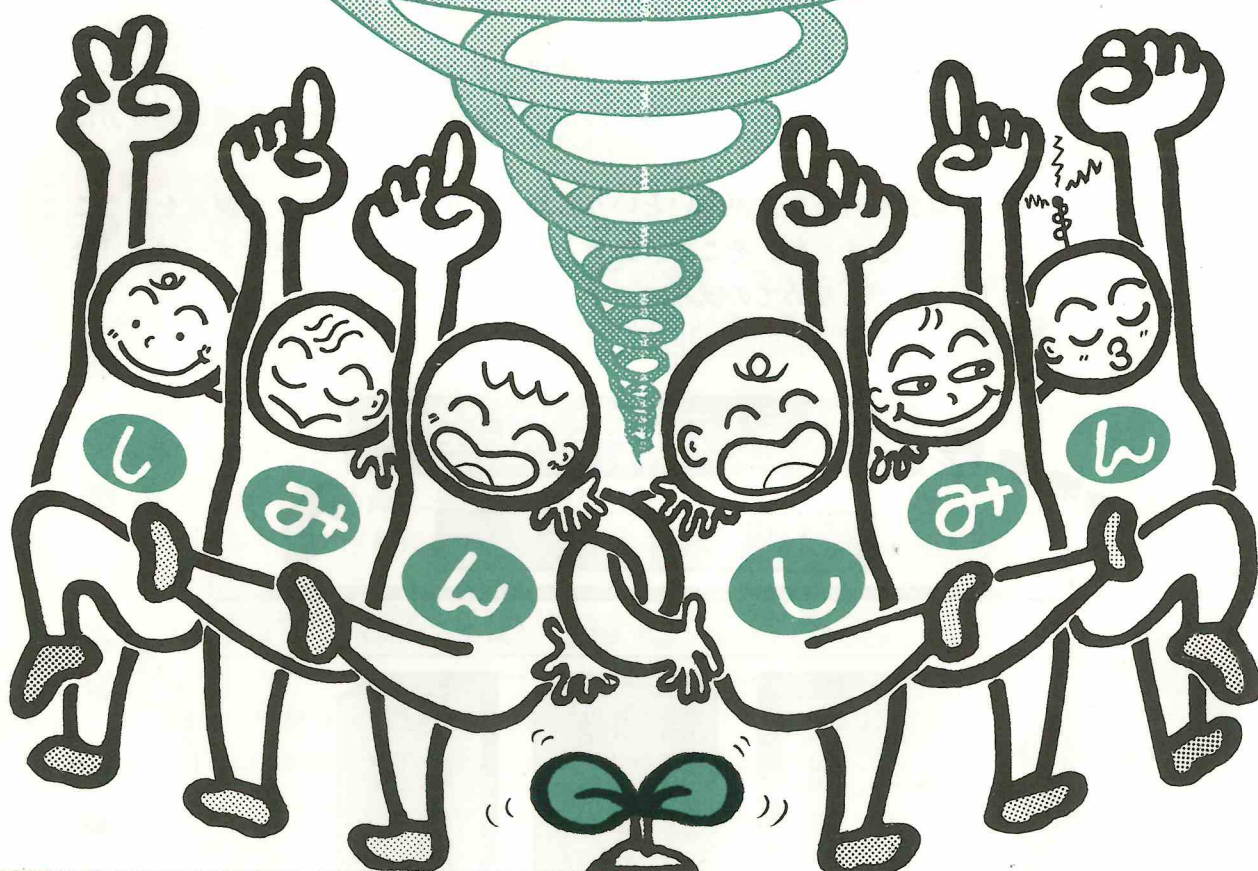


NPO センターの 設立を目指して

鎌倉市市民活動センター



市民活動支援事業報告書概要版

・ 鎌 倉 市 ・

平成10年 5月 1日

NPOセンター鎌倉・NPOセンター大船

オープン

※NPOセンターは、鎌倉市市民活動センターの愛称です。

NPO（Nonprofit Organization 民間非営利組織）センターは、福祉、環境、国際支援、まちづくりなどのボランティア活動を支援する施設です。

市では公募の市民活動団体代表者から構成される鎌倉市市民活動支援検討委員会（愛称市民サポート委員会）を設置し、鎌倉市における市民活動支援のあり方を探ってきました。平成8年度は活動における現状や課題を把握するため、鎌倉市内の市民活動団体の実態調査や、市民活動をめぐる動きを学習する公開勉強会などを実施し、市民活動支援に関する基本的な理念と方針を提言としてまとめました。

提言には、支援の基本的な方策として、「市長による支援の理念と方策と表明」「会議室・作業室などの空間と機能の提供」「参画、協働、課題解決のための情報提供」「学習・研修の機会の提供」「人材の紹介・派遣・交流」「活動資金の助成・融資」の6本の柱が示されています。

平成9年度はその提言に基づき、「場の支援」「情報の支援」「学習・研修の支援」を重点目標とし、検討をすすめました。

具体的には、鎌倉市役所第二分庁舎において、市民によるNPOセンター運営実験を行い、そこでの結果をもとに、フォーラムで多くの市民と具体的な市民活動支援のあり方についての議論を行いました。

その結果、市民が運営を行った方が良いという結論となり、実際に市民が運営を担うことも可能という目処もつきました。そこで、鎌倉と大船の二つのNPOセンターは、「公設市民運営」という全国でも初めての試みでスタートすることになりました。

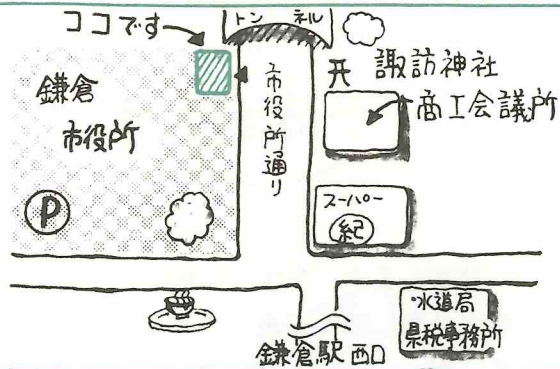


NPOセンターは、こんなところです。

- NPOセンター鎌倉と、NPOセンター大船は、どちらも駅から近い
抜群の立地条件のところにあります。

鎌倉 NPOセンター鎌倉

鎌倉市民活動センター 鎌倉市役所第2分庁舎



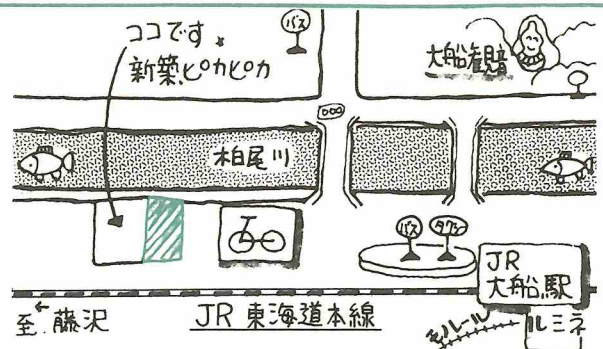
問い合わせ：

月～金 = ☎ 23 - 3000 (内線655)

土 = ☎ 23 - 3005 (内線655)

大船 NPOセンター大船

大船市民活動センター たまなわ交流センター 1階



問い合わせ：

(代表) = ☎ 46 - 8670

※ 駐車場はありませんので、車でのお来館はできません。

機能の数々

① 打ち合わせ・会議、作業ができます

二つのNPOセンターは、ミーティングルームがあります。そこで、打ち合わせや作業ができます。

② 印刷ができます

各センターに簡易印刷機が設置されています。ニューズレターや会報、チラシの印刷ができ、作業スペースもあります。NPOセンター鎌倉にはコピー機もあります。

③ 交流ができます

情報コーナーがあり、パンフレットやニューズレター等を掲示することができます。NPOやボランティア活動に関する本や冊子も充実しています。

④ ボランティア活動に関する相談ができます

「ボランティア活動に興味はあるけど、何をしたいのかわからない」といった活動に関する相談をすることができます。市民コーディネーターが窓口で、ボランティアやNPOに関するご相談をお受けしています。

開館時間：午前9時から午後5時まで

休館日：(1) 日曜日及び休日 (2) 12月29日～1月3日まで

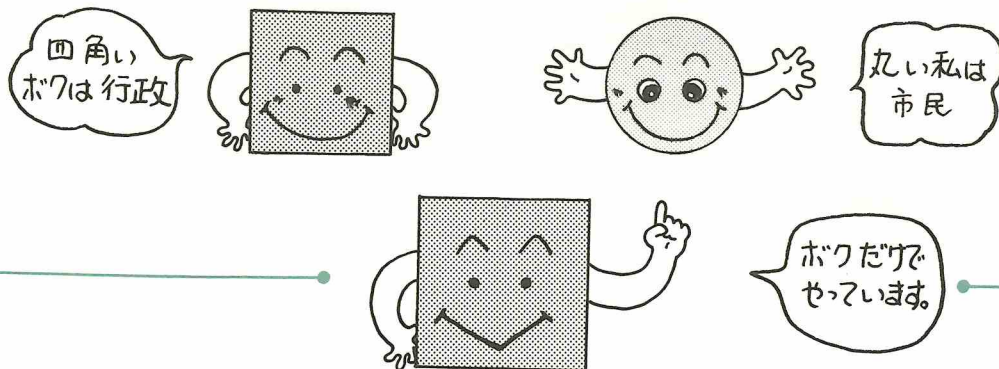


利用できる団体

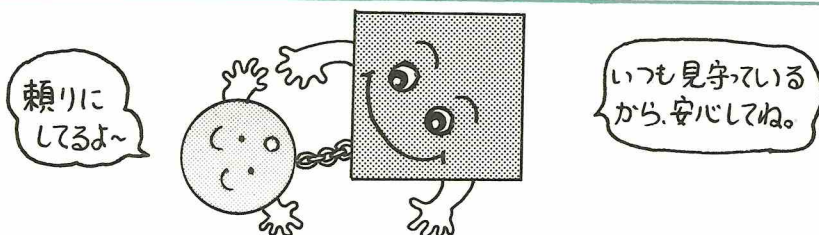
福祉、環境、まちづくり、国際支援など、社会的課題に取り組む市民活動団体です。利用には、団体登録が必要です。センター及び市民生活課に備え付けの登録用紙に必要事項をご記入の上、各センターにお申し込み下さい。

NPOセンターは、公設市民運営の活動拠点です。

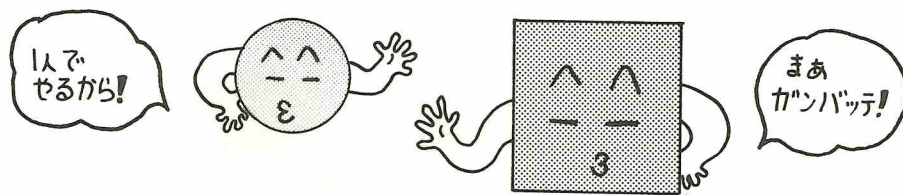
◆公設市民運営とは、こんなしくみです。



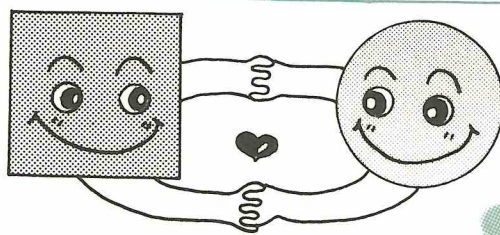
●公設公営とは、行政が企画し、行政が設置し、行政が運営します。市民は利用はもちろんしますが、運営や企画にはあまりタッチしません。現在全国に続々出来つつある市民活動支援施設の多くは、このタイプです。



●公設民営とは、行政が設置しますが民間に運営を任せます。この場合の民間とは、行政の外郭団体だったり、ビルメンテナンスの会社だったりします。民間が効率よく運営しますが、特定の企業や団体にまかせてしまい、運営や企画に市民の意見が反映されにくい場合があります。



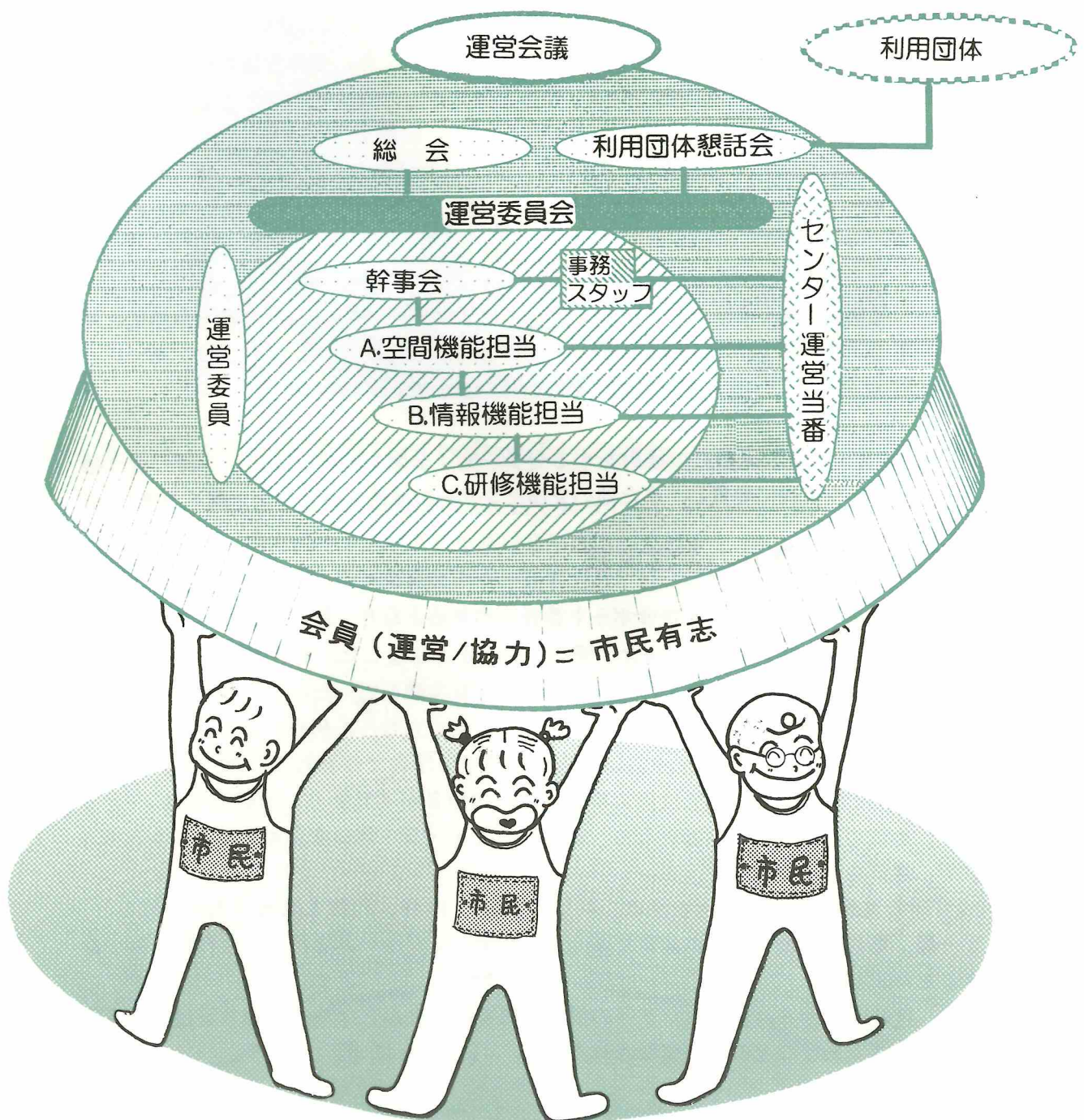
●民設民営とは、民間が設置し、民間が運営するものです。市民団体の力が強い欧米では民設民営の施設は多いそうですが、日本ではほとんどありません。



●公設市民運営とは、施設を行政が用意し、運営を市民に任せる形です。ハードは行政、ソフトは市民という形で、市民と行政の対等なパートナーシップと言えます。

市民活動センター運営会議が 各NPOセンターの運営を行います。

● NPOセンターを運営するための市民活動団体として発足したのが、市民サポート委員会の後継組織「市民活動センター運営会議」です。運営会議は、センターの運営をするとともに、市民活動支援に関する様々な事業を企画立案し、実施します。いわば、市民活動を支援するNPOと言えます。運営会議は、市民活動に関心のある市民によって構成されています。



NPOセンター設立準備

検討にあたっては、昨年に引き続き専門員より適切なアドバイスをいただきました。専門員は昨年同様、山岡義典氏（日本NPOセンター常務理事 事務局長）卯月盛夫氏（早稲田大学教授）、松原明氏（シーズニ市民活動を支える制度をつくる会事務局長）にお願いしました。

①第二次市民サポート委員会の開催

平成8年度末に終了した第一次市民サポート委員会に続き、新たな人材を発掘する目的で、改めて第二次市民サポート委員会を公募しました。委員に応募したのは33団体です。

第二次委員会では、13回の全体会議を開催し、実験内容等を話し合いながら、NPOセンターの運営の仕組みや組織体制等の検討を行いました。また、全体会議の他に次のような3つの分科会チームを設け、全体会議で議論されたことの実現を図りました。

(A)「場の支援」の検討をするAチーム：鎌倉市役所第二分庁舎を「NPOセンター鎌倉」の名称で仮の支援拠点に見立てて運営実験を行い、NPOセンターの運営方法の検討を行いました。

(B)「情報の支援」の検討をするBチーム：市民サポート委員会の内容を市民に広報するニューズレター「鎌倉パートナーズ」を発行し、また、NPOセンターに必要な情報提供・情報収集機能の検討を行いました。

(C)「学習・研修の支援」の検討をするCチーム：公開フォーラムの形で話し合う機会を広く市民に提供し、また他の支援センターの機能や運営方法を調査しました。

②NPOセンター鎌倉の運営実験

実験にあたっては、第二次市民サポート委員会が中心となり、新たに公募によるモニター団体を加え、「NPOセンター鎌倉準備会」を発足させました。行政が設置する市民活動支援施設はいくつかありますが、オープン前に運営実験を行ったのは、鎌倉が初めてです。しかも、実験を市民の手で行ったのですが、それももちろん初めてのケースです。

運営実験はA、B両チームを中心に、市役所第二分庁舎で行われました。実験期間は11月1日～30日の間で（電気設備工事等、臨時休館日が4日あり、実験日数は26日です。）、委員の所属団体が当番となり、原則として土・日・休日を含めた朝9時から夜9時まで、窓口に常駐しました。

26日間の実験期間中の利用状況は、利用件数延べ73件、利用人数延べ251人でした。コピー機、簡易印刷機の利用が非常に多く、ミーティングルームを利用した打合せもかなり多くありました。

また、休日や夕方5時以降はフリーの個人来訪者はほとんどなく、開館日及び開館時間の検討が必要であるなどの指摘がなされました。

③公開フォーラム

「元気な市民活動をめざして～いま、鎌倉のNPOを考える～」

公開フォーラムは、まちづくりにおける市民活動の重要性を広く市民の間で話し合ってもらうことを目的にCチームを中心に企画されました。フォーラムは平成10年2月7日(土)の午後に開催され、約80人の参加がありました。最初に専門員の山岡氏の講演でNPOについての基本的な理解と認識を深め、次に市民サポート委員の3人による鎌倉での市民活動の経験を踏まえた問題提起を行い、会場全体で討議しました。松原氏、山岡氏のアドバイスのもと、市民活動について活発な論議が交わされ、協働による市民活動拠点づくりが必要であることが確認されました。



④ニューズレター「鎌倉パートナーズ」の発行

市民サポート委員会の検討経過を市民に広く知ってもらうために、Bチームを中心にニューズレター「鎌倉パートナーズ」を平成8年度に引き続き、4回発行しました。

このニューズレターは、市民活動センター運営会議においても、活動における市民の視点での情報発信の場として、今後も継続的に刊行する予定です。



● ニュースレター「鎌倉パートナーズ」 ●

NPOセンター設立準備を終えて

第二次市民サポート委員会は、平成9年度、このように「場の支援」「情報の支援」「学習・研修の支援」の検討を重ねて、市民の手による運営実験の結果、鎌倉市におけるNPOセンターのあり方に、市民参加でこそその知見と具体的な方針を得ることができました。

本事業における最大の成果は、市民活動における課題に柔軟に対応できるよう、設立の段階から市民が企画参加し、公設のNPOセンターの運営を市民が担う「公設市民運営」の実現です。3つの分科会チームに分かれて事業に関わったこと、市民活動拠点、NPOセンターの設立及び運営という具体的な目標に一丸となって取り組んだことが、自立した市民活動団体と行政の協働による今回の成果を生み出したと言えます。

運営体制などまだまだ解決しなければならない課題は数多くありますが、運営会議はこれまでの団体としての参加システムから「市民活動に関心と熱意のある個人」としての参加システムに切り替え、市民のセンスとエネルギーを生かしたNPOセンターづくりを進めていきます。



第二次市民サポート委員会の構成団体

体操たまなわ会
ささえる会
神奈川県ホームヘルプ協会 ブランチ鎌倉ほーむへるぷ
カマクラ「風の谷」
◎ 鎌倉の川びらきの会
W. C o リサイクルハウス with 友
大平山丸山町内会助け合いの会
鎌倉子ども劇場
鎌倉演劇鑑賞会
鎌倉のまちづくり市民懇談会
鎌倉市ボランティア連絡協議会
鎌倉市民同窓会
たすけあいワーカーズコレクティブ グループゆう
鎌倉世話焼ワーカーズ「蘭」
鎌倉家事介護W. C o 「であい」
西鎌倉たすけあいの会
鎌倉生活学校
山崎の谷戸を愛する会
鎌倉の海を守る会
食事サービスワーカーズコレクティブ キッチンかまくら
サーフレスキュー湘南チーム
鎌倉市地域婦人団体連絡協議会
○ 社団法人 鎌倉青年会議所
かまくら環境会議
鎌倉市消費者婦人団体研究会
鎌倉ホームヘルプ協会 ベルの会
腰越のまちを考える会
○ 星月乃会
鎌倉ユネスコ協会
鎌倉地方自治研究会
鎌倉リサイクル推進会議
鎌倉護美ニティ
鎌倉サーフ・ライフセービング・クラブ

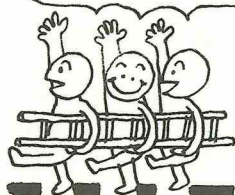
第二次市民サポート委員会の一年

平成9年5月
～
平成10年5月

5 かつ 10号 広報からにて

・委員を募集・

さあ、スタートだよ!!



第二次市民サポート委員会事前説明会
・応募希望者に対し、委員会の趣旨とこれまでの経緯を市から説明。

第1回委員会(6/17)

- ・委員及び専門員(*)委嘱式
- ・事業の方向性をNPOセンター設立に決定
- ・アクションリサーチとして運営実験の検討

6 かつ

(*)専門員(アドバイザー)

山岡義典氏(日本NPOセンター
常務理事・事務局長)
卯月盛夫氏(早稲田大学教授)
松原明氏(シーズ・市民活動を支
える制度をつくる会事務局長)

7 かつ

第2回委員会(7/18)

- ・運営は全体会議の他に分科会を設置し行う。
- Aチーム: 場の支援
- Bチーム: 情報の支援
- Cチーム: 学習・研修の支援
- ・センター名称決定「NPOセンター鎌倉」

分科会は随時開催

8 かつ

第3回委員会(8/18)

- ・実験方法の検討

第4回委員会(9/1)

- ・実験主体として、NPOセンター鎌倉準備会発足を決定
- ・実験方法及び期間の検討

第一回事例調査(9/9)

- ・フォーラムよこはま
- ・金沢ボランティアハウス



またまた

第二回事例調査(9/11)

- ・北区富士見橋エコ広場館

第5回委員会(9/27)

- ・事例調査の報告
- ・実験方法及び期間の確定

9 かつ

NPOセンター運営
実験事前準備
(10/29)

11 かつ

運営実験

(11/1～11/30)

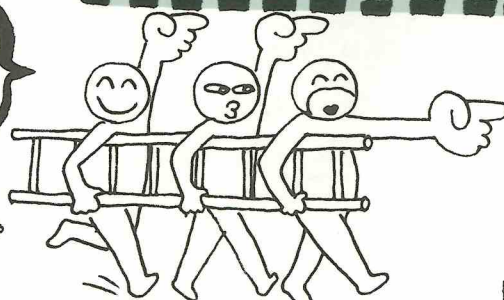
午前9時～午後9時

第6回委員会(10/23)

- ・実験準備の最終調整
- ・フォーラムの検討準備

10 かつ

つづいて
次のページに
いくよ～。



5 がつ ヤッター!

第13回委員会(3/28)

- ・NPOセンター運営ルール of 最終決定
- ・運営会議の組織体制 of 決定

3 がつ

第12回委員会(3/11)

- ・運営会議の組織体制 of 検討(4)

もうすぐ春だ!!
あと、ひと息

第11回委員会(2/23)

- ・運営会議の組織体制 of 検討(3)
- ・事務局長 of 決定

おかげで
雪遊びが
たくさんできた
ね!

今年の冬は
鎌倉にも
雪がよく
降ったね~

第10回委員会(2/4)

- ・運営会議の組織体制 of 検討(2)
- ・公開フォーラム of プログラム、役割分担等 of 確認

あけまして
おめでとう

第9回委員会(1/12)

- ・運営会議の組織体制 of 検討(1)
- ・公開フォーラム of 詳細検討

平成10年
1 がつ

◆公開フォーラム (2/7) ◆

「元気な市民活動をめざして
~いま、鎌倉のNPOを考える~」

●講師 / 山岡義典氏

●コメンテーター / 松原明氏、山岡義典氏
鎌倉における市民活動の課題について、
全体で討議。

2 がつ

かんはれ~
山あり
谷あり

第7回委員会(11/19)

- ・運営実験の中間報告
- ・公開フォーラム of 企画検討

登りはちょっと
辛いけど、明るい
5月が待っている。

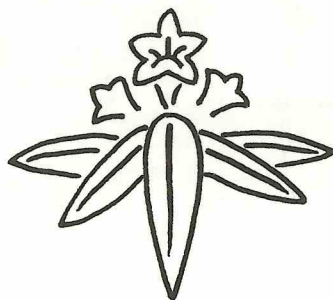
第8回委員会(12/17)

- ・実験報告及び運営体制 of 検討
- ・運営体制は「公設市民運営」と決定
- ・団体名称「市民活動センター運営会議」に決定
- ・公開フォーラム of 内容決定

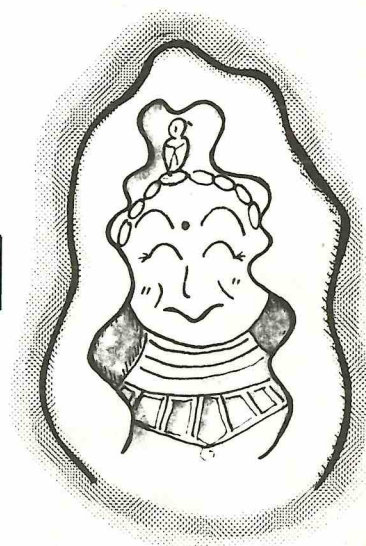
12 がつ

よし!
ゴールまで
頑張った。はしごを
かけて 行くぞ~

メリ~
クリスマス



鎌倉市



NPOセンターの設立を目指して
市民活動支援事業報告書概要版

平成10年3月

発行/鎌倉市

編集/鎌倉市市民活動部市民生活課

〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号

TEL 0467-23-3000 内線 310

FAX 0467-25-5508